

# NJ 素流協 News

平成21年5月25日

第53号

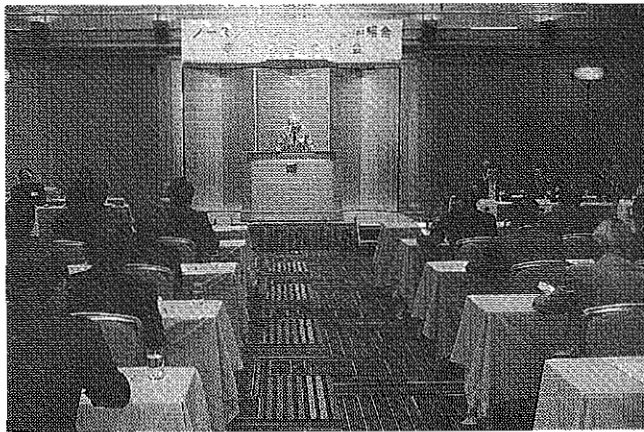
平成21年5月25日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館9階)  
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

## ノースジャパン素材流通協同組合 第6回通常総会

当協同組合第六回(平成二十一年度)通常総会等が、去る五月十五日(金)ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング(盛岡市)において開催された。

### ▽通常総会

組合員八十二名中、本人出席二十七名、委任状出席十一名、書面議決書提出二十五名、計六十三名



の出席の下、石川勝也副理事長の開会の辞により開催された。

下山裕司理事長の挨拶の後、伊藤賢二氏(北上市)を議長に選任して、提案されている九つの議案について審議がなされた。

全て原案どおり承認されたが、主なものについて、内容紹介します。

### 一、第一号議案「平成二十年度事業報告書」等

素材の総取扱数量は、合板用針葉樹素材を主体として一七五、四四六立方メートルで、計画量に対して八九・五%、昨年度実績に対して一〇九・六%となった。

樹種別数量は合板工場で樹種別に受入調整が行われたことからカラマツの比率が大きく増加した。

また、石巻に所在する合板工場2工場へ出荷を開始した。

### 二、第二号議案「利用分量配当」

二十年度出荷量について、一立

方メートルあたり五円を配当する。

### 三、第三号議案「平成二十一年度事業計画」等

組合員の生産活動の健全発展の助長、国産材の安定的供給体制の整備と利用拡大、伐採跡地の森林再生を活動軸として、計画的・継続的な事業展開を積極的姿勢で図ることを基本方針として、次の四つの事業を進める。

### (一) 国産材の安定供給体制の整備・充実

ア、共同販売事業の推進  
計画数量を合板用十六万六千立方メートル(会員十五万六千、システム販売一万)、その他一万立方メートル、計十七万六千立方メートルとする。

### イ、出荷調整機能の強化

ウ、出荷材の規格品質の向上と迅速な事務処理

### エ、広い地域における素材流通事業の実証的実施

### (二) 木質系資材の有効利用の推進

ア、林地残材等未利用木質系資

材活用の方途開拓

イ、樹種や規格の多様性増大へ向けた市場開拓

(三) 人工林皆伐跡地の森林再生事業への新たな試み

ア、造林補助制度と連動させた

再造林助成システム制度化へ向けた取組み

イ、低コスト再造林の実証的

業の取組み

(四) 組合員の生産活動助長と組合の経営基盤の強化

ア、免税軽油使用のための事務指導

イ、地区別組合員会議の開催

ウ、工場見学会、合法性証明講習会の開催

エ、素流協ニュース、労働災害

防止情報等の定期的情報提供

四、第九号議案〔役員増員〕

当組合の事業区域が拡大し、賛助会員であった青森県の九事業体が新規会員として加入したことから、青森県から青森県森林整備協同組合専務理事小山内八郎氏を理事に増員選任した。

▽通常総会報告会

通常総会に引き続き開催され、開会にあたり下山裕司理事長は、関係各位への日頃のお礼と今年度の取組み決意について次のように挨拶した。

「創立以来の六年間の事業活動は順調に進捗してきたが、これは、合板工場の積極的購入と組合員の安定的供給能力の増大努力による結果である。

現在、この厳しい現況下において、役員は相当の覚悟をもって事業運営に当たらなければならない。熊は、長い冬を眠って春が来るのを待っているが、素流協は眠っているだけではダメであり、無駄な動きは省いて、頭を使って考えなければならない。

これまでの六年間の事業結果とその妥当性を再検討し、冬が終わって春が来ると同時に俊敏かつ適切な行動が即取れるよう準備をする必要がある。

林業・木材産業の進むべき方向を見極める努力をし、この厳しい

試験を、素流協の次なる飛躍のための絶好の踏み台とすべきである。

関係者の皆様の今まで以上の一層のご理解とご協力、ご支援をお願い致します。」

続いて、総会報告（高橋早弓常務理事）と多量出荷者に対する表彰（表）の後、ご来賓として、山崎信介東北森林管理局長、岩手県林業水産部長（代西村和明林務担当技監）、岩手県森林・林業会議理事長（代古川智之専務理事）、ホク

ヨープライウッド(株)代表取締役社長（代福田忠一常務取締役）様より、ご祝辞を頂いた。

小野北日本プライウッド株式会社代表取締役社長様からの祝辞も併せて紹介された福田常務理事様の祝辞の一部を紹介します

「現在の状況は今までに経験したことのない状況におかれている。合板原料の半分以上が国産材になった現在、合板メーカーにとって国産丸太の再生産を可能とする道作りを行うことが、合板の採算回復にも繋がることになると考え

ている。現在の合板価格から一日でも早く抜け出すことにより、適正な需給関係を取り戻し、素材生産業の方々が再生産可能な状況にする必要がある。

現在、工場を止めて大変ご迷惑をかけているが、多くの住宅メーカーの入荷数量が大分回復している。今後とも、われわれ工場側も努力するので、素材の供給をよろしくお願いします。」

表 表彰者名

横澤林業(株)
上北森林組合
(株)イワリン
三陸中部国生協
青森県国生協
岩手中央森林組合
(有)丸大県北農林

▽懇親会

報告会終了後、東北森林管理局森林整備部長石井晴雄様の乾杯のご発声でもって開会され、しばらくの懇談の後、新理事の青森県整備協専務理事小山内八郎様の中締めをもって流れ解散となった。

# 平成二十年度 年間取扱量

平成二十年度の年間取扱量は計画量には達しなかったが、前年度実績より約二一、七〇〇立方メートル多い一七五、四四六立方メートルとなった。

合板工場への出荷量は、組合員出荷が一五四、五九五立方メートル（昨年度より約一七、八〇〇立方メートル増）、システム販売扱い一二、一七六立方メートル（昨年度より約四、八〇〇立方メートル減）となった。

合板工場への月別出荷量は、昨年度同様八月が少なく、三月が多くなっているが、工場側の受入調整により七月以降減少し、ホクヨウプライウッド(株)、北日本プライウッド(株)2工場で八、〇〇〇〜一四、〇〇〇立方メートルとなっている。

また、十一月からは石巻市のセイホク(株)、西北プライウッド(株)の2工場への出荷がスタートし、月当たり一千〜二千立方メートルの出荷量

となり、特に三月は五千立方メートル弱の出荷量となった。(図1)

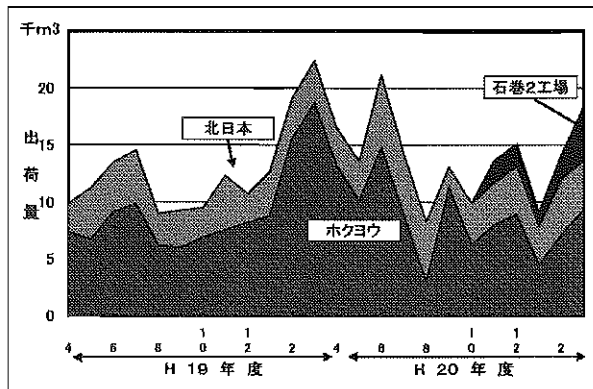


図1 月別工場別「出荷量の推移

樹種別出荷割合は、昨年度と比較して、カラマツの比率が増大(一七%→三二%)し、反対にアカマツの割合が減少(二二%→一三%)している。

この傾向は、年度末の二、三月に顕著となっている。(図2)

合板工場以外への出荷量は、八、六七七立方メートル（昨年度より約二、四〇〇立方メートル増）で、

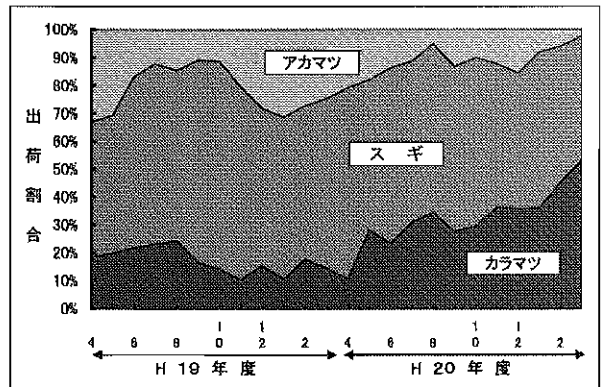


図2 樹種別出荷量の推移

樹種別ではスギが圧倒的に多く六八%で、カラマツ一六%、その他一六%となっている。

月別出荷量は、スギ以外の出荷量がほぼ一定した量となっていることから、スギの出荷量の影響を大きく受けている。(図3)

なお、一関市大東町へ設置しているストックヤードでの取扱量は、一、四一九立方メートル（昨年度より約七三〇立方メートル減）となっており、ホクヨウプライが受入調整をしたことから、十一月に在庫量の整理で出荷した以外、九

月以降取扱量が無くなっている。

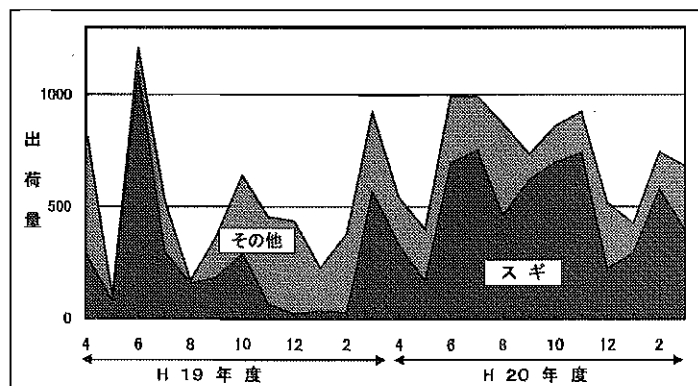


図3 合板工場以外への出荷量

## (有)谷地林業代表取締役 谷地忠一氏 旭日双光賞受賞

当組合の会員である有限会社谷地林業 代表取締役谷地忠一氏(七一歳、久慈市山形町)は、平成二十一年春の叙勲において地方自治への貢献が認められ旭日双光賞を授与されました。

おめでとうございます。

# 新規組合員紹介

今年1月1日から3月末日まで  
に、次の方々が新たに組合員となら  
れておりますのでお知らせします。

## ☆新組合員

1 住 所 宮古市茂市

会社名

(株)小林三之助商店岩手工場

代 表 専務取締役工場長

野 邑 計

入 会 平成21年1月5日

2 住 所 一関市巖美町

会社名 興和林業(株)

代 表

代表取締役 北岡 幸一

入 会 平成21年3月25日

一葉

広

葉

樹

(8)

▽花の雌雄性

花には雄しべと雌しべがあると小学生の理科で教えられる。このように一つの花に雄しべと雌しべのある花は、両性花と呼ばれ、植物の花の約七〇%がこのタイプである。

しかし、単性花といわれる雄し

べと雌しべがある

べだけを持った雄花や雌しべだけを持った雌花に分かれている花も多くあり、スギやアカマツなどの針葉樹(裸子植物)にこのタイプの花が多い。

単性花の個体(株)は、一つの株に雄花と雌花が咲く雌雄同株(雌雄異花)と、どちらか一方の花しか付けない雌雄異株とがある。

▽受粉様式

雄しべで作られた花粉は雌しべに移動して受粉が行なわれる。

花粉が何で移動するかによって、風媒、虫媒などに分類される。

同じ個体の花粉で受粉することを自家受粉、他の個体の花粉によるものを他家受粉と呼ぶ。

生物学的には多様な遺伝子の組合せができる他家受粉の方が有利であり、

多くの植物は自家受粉しないような仕組みをとっているが、他家受粉のみに頼ると、近くに他の個体がないときには子孫を残せなくなるので、自家受粉する植物も多い。

花粉が風によって運ばれて受粉する風媒花には、単性花が多く、虫によって運ばれる虫媒花には両性花が多くなっている。

▽開花時期  
開花時期を開葉時期との関係で

**冗談欄**

## 3で括った言葉

ある林業講演会で「新3K」という言葉を聞いた。  
「環境」「景観」「健康」を指し、まさに林業そのものだというのである。

かつて、3Kといえば、「危険」「汚い」「きつい」と嫌われる職場を指し、林業が代表としてあげられていた。

価値基準や見る方向が異なればこうも違うものかと感心する。

日本人は3とか5とかの数字を使って、物事を括って表現するのがうまい。

3で括った言葉を探してみる。かつての3C(自動車、クーラー、

カラーテレビ)や3Rのリユース(再利用)、リデュース(廃棄物発生抑制)、リサイクル(再資源化)は有名なところ。

3Kの高収入・高学歴・高身長は理想の結婚相手、空っ風・雷・カカア天下は群馬県、更に競馬・競輪・競艇は賭け事で、臭い・汚い・気持ち悪いはオジサン。

3Hの変態・禿げ・腹が出てくるは熟年老人、3Bのボケ老人・朴念仁・勃起不全は後期高齢者。どうも、自分に当てはまりそうな内容が多くなってきたので、これ以上探すのをやめた。

多くの植物は自家受粉しないような仕組みをとっているが、他家受粉のみに頼ると、近くに他の個体がないときには子孫を残せなくなるので、自家受粉する植物も多い。

花粉が風によって運ばれて受粉する風媒花には、単性花が多く、虫によって運ばれる虫媒花には両性花が多くなっている。

▽開花時期  
開花時期を開葉時期との関係で

類型化すると、①開花が開葉より早いもの ②開花と開葉がほぼ同時であるもの ③開花が開葉より遅れるものに区別される。

風媒花では開葉に先駆けて開花する樹種や開葉と同時に開花する樹種が多くなっており、開花が開葉より遅い樹種はない。

一方、虫媒花は開花が開葉より遅い樹種が圧倒的に多くなっている。

平成21年4月分の販売実績

- 1 合板用出荷量を先月と比較すると、スギが約2,150m<sup>3</sup>、カラマツが約850m<sup>3</sup>、アカマツが約40m<sup>3</sup>、全体で約3,040m<sup>3</sup>減少している。また、昨年4月と比較すると、スギが約5,250m<sup>3</sup>、アカマツが約3,060m<sup>3</sup>大幅減少し、反対にカラマツが約7,170m<sup>3</sup>大幅増大して、全体で約1,150m<sup>3</sup>減少している。工場別ではホクヨープライウッドが先月比較で約330m<sup>3</sup>減少、昨年4月比較で約4,070m<sup>3</sup>大幅減少、北日本プライウッドが先月比較で約830m<sup>3</sup>、昨年4月比較で約1,870m<sup>3</sup>増大となっている。これら増減の主原因は、工場側の受入調整によると考えられる。また、石巻2工場への出荷量は先月比較で約3,640m<sup>3</sup>減となっている。なお、これら合板用出荷量のうちシステム販売取扱量は先月より約1,070m<sup>3</sup>増となっている。
- 2 その他(合板用以外)の出荷量は先月より約380m<sup>3</sup>、昨年4月より約740m<sup>3</sup>減少している。
- 3 今年度の年間計画量に対する1ヶ月あたりの累積出荷量の割合(目標達成率)を8.3%とすると、今月の合板用出荷及び全体出荷は計画を若干上回る進捗状況となっている。

(m<sup>3</sup>, %)

樹種	長級	販売先				計	累計				
		合板用					その他	計	合板用	その他	計
		ホクヨー プライウ ッド(株)	北日本プ ライウッ ド(株)	セイホク (株)、西北 ブライ ド(株)	小計						
スギ	2.0	1,176	1,869	74	3,119	203	6,274	3,119	39.5	203	6,274
	4.0	352	2,046	554	2,952			2,952			
	計	1,528	3,915	628	6,071			(379)			
カラマツ	2.0	4,276	934	8	5,218	21	8,936	5,218	58.0	21	8,936
	4.0	2,928	345	423	3,696			3,696			
	計	7,204	1,279	431	8,914			(118)			
アカマツ	2.0	367	0	0	367	0	384	367	2.5	0	384
	4.0	17	0	0	17			17			
	計	384	0	0	384			(384)			
その他針		0	0	0	0	47	47	0		47	47
広葉樹		0	0	0	0	29	29	0		29	29
合計					[ 0 ] ( 880 ) 15,369	301	15,669	[ 0 ] ( 880 ) 15,369	100.0	301	15,669
目標達成率								9.3		3.0	8.9
計画量								166,000		10,000	176,000

長級2.0には2.1を含む ( ) はシステム販売取扱量(内数) [ ] はストックヤードからの出荷量(内数)

落穂拾い

▽日本の岩手日報(朝刊)に、「自殺率全国三番目に」という大見出しで、本県の二〇〇八年の自殺者数(厚労省調べ)は前年比十七人増の四百五十四人で、人口一〇万人当たりの自殺率三三・七人であるという記事を読んだ。

秋田県、青森県に次いで全国三番目であり、北東北でワースト3を占めるというまったく自慢にならない記録である。

経済大不況による雇用情勢の悪化等が大きく影響を与えていると分析結果を示している。

その他にもいろいろな事情が絡んでのことであろうが、まことに痛ましく、やるせない気持ちに陥ってしまった。

それで思い出したのであるが、ある雑誌の記事の中に「日本は不可思議な国である。GNPは世界第二位で、そして世界一の長寿国でもある。それなのに自殺率は先進国の中で最も高い。人口千人当たりの医師数はわずかに二人、タジキスタンやドミニカ共和国と同じレベルでしかない」という記述があった。

わが国における慢性的・恒常的医師不足の問題が指摘されてから久し

く、その実態は地方に行けば行くほど医療施設や医師の不足の度合いが厳しくなっている。

さて、平成二十一年度補正予算が成立した。総額約十五兆四千億円に上るが、その予算の使い方にはいろいろと批判の声があり、「バラまき予算だ」とか「官僚お任せ予算の最たるもの」等々である。

堺屋太一氏(作家)は、今回の補正予算では国民に夢と未来を感じさせようという目玉も鼻筋も見られない。小泉八雲の『怪談』に出てくるむじなのような気色悪さである。あきれ返るのは、官僚天下り団体への基金積み増しの多さである。「と言っている」。

また、彼は、補正予算支出の方もすさまじいバラまきだ。十五兆円もあれば、世界最高医療の全国展開もできるし、全国一カ所の児童公園を商店街の目玉に変え、子育て産業を育成して全国各地の活性化も可能である。「とも言っている」。

どうも今回の大型補正予算は、日本の将来の成長をきちんと見据えた構造改革型ではなくて、一時しのぎの救済型に偏しているようである。本県の自殺率の増高に関する新聞記事からのやるせない気持ちが補正予算に対する否定的な思いにまで飛躍してしまっただようである。